

【さらさ100号記念特別企画】

- さらさ100号までの歩み
- 創刊号&復刊号担当者インタビュー
- 川とともに30年

京都府

府民に支えられ「より美しい鴨川へ」

三重県

木津川河川改修について～治水の歴史と多自然づくり～

京都市

水を流す河川から生活に息づく河川へ

兵庫県

城崎温泉街を流れる大谿川

- あの川はいま

大阪市

水都大阪の観光拠点を目指して～道頓堀川を取り組み～

【100号からの新企画】

- 季節の水辺風景
- 水辺を楽しもう！（ダムカレー特集）

第100号特別記念号

2017 冬 号

No.100

ページ

100号記念特別企画

- 3 (1) 第100号までの歩み
- 5 (2) 創刊号&復刊号担当者インタビュー
- 7 (3) 川とともに30年
- ①府民に支えられ「より美しい鴨川へ」・・・ (B)
京都府 建設交通部 河川課
- 9 ②木津川河川改修事業について～治水の歴史と多自然川づくり～・・・ (C)
三重県 県土整備部 河川課 上田 高久
- 11 ③水を流す河川から生活に息づく河川へ
京都市 建設局 土木管理部 河川整備課 西村 卓展
- 13 ④城崎温泉街を流れる大谿川・・・ (A)
兵庫県 県土整備部 河川整備課 村尾 拓哉
- 15 (4) あの川はいま
- 水都大阪の観光拠点を目指して～道頓堀川の取り組み～・・・ (D)
大阪市 建設局 下水道河川部 河川課 須田 瑛哉

100号からの新企画

- 17 (1) 季節の水辺風景
- ①余呉湖の冬の風物詩～わかさぎ釣り～(滋賀県)
- ②有馬四十八滝～七曲滝の氷瀑(神戸市)
- 19 (2) 水辺を楽しもう！(ダムカレー特集)
- ①永源寺ダム、青土ダム、野洲川ダムカレー(滋賀県)
- ②布目ダムカレー(奈良県)

トピックス

- 21 (1) 奈良県の総合治水対策について
～大和川流域における総合治水の推進に関する条例の制定～
- (2) 「2025年 国際博覧会を大阪・関西へ」

インフォメーション

- 24 鴨川探検！再発見！第47弾 etc

イベント情報

- 27 大和川一斉清掃・・・ (E) etc

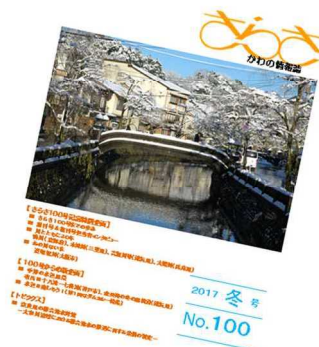


冬の大谿川 〈表紙〉

A **大谿川**
 おおたにがわ
 大谿川は、兵庫県豊岡市城崎町を流れ、その後円山川へと流れる一級河川です。
 兵庫県内でも有数の観光地である城崎温泉の中心を流れており、温泉街とともに風情のある景色を楽しむことができます。



※図中 A ~ E は記事の位置(河川)を示しています。



「かわのさ」は、近畿管内の府県(十三重県)と政令市、近畿地方整備局が河川やダムなどの水行政に関する情報などを発信する「かわ」の情報誌です。
 一九八七年の創刊から、ついに節目となる100号を迎えました。今号では100号記念特集や、2つの新企画も始まります。
 これからも、より多くの方に興味を持ってもらえるような雑誌を目指していきたいと思えます。

かわの情報誌”さらさ”について

水行政に係わる情報の発信・共有によって、河川行政担当者間の交流・連携を深めることを目的に近畿管内の各府県（三重県含む）と政令市、近畿地方整備局によって「かわの情報誌”さらさ”」を発刊しています。

1987年秋の創刊号から季刊（年4回）で発刊し、2008年冬の82号からおよそ5年の休刊期間を経て、2013年秋の83号で復刊、そして2017年冬号である本刊で記念すべき第100号を迎えました。

記念すべき、かわの情報誌”さらさ”第1号は1987年秋に発刊されました。

「サポートします秋のおでかけ近畿の秋、特選53プラン」と題して三重県名張の滝巡りや滋賀県の瀬田川サイクルなど、秋のレジャーを特集しています。



1987年秋創刊

幻のさらさ創刊準備号



▲整備局にもわずか1冊しか現存していない。

第1号より前に創刊準備号なるものが発刊されており、幻の一冊となっています。創刊準備号は、ほぼ整備局職員によって作られていたようです。

創刊初期（第1号～第30号頃）

創刊初期のさらさでは「かわ」に親しんでもらうことを第一にハイキングやサイクリング等の水辺を楽しむレジャーが多く紹介されていました。

河川事業の話が誌面の多くを占め、お堅い内容になっている今のさらさと比べると、**楽しい「かわ」の情報が満載の”さらさ”**になっていました。

▼近畿地方の川遊びスポットが一挙に紹介されています。



▲メダカ釣りや石切りなど昔懐かしい川遊びが紹介されています。



▲”親川号”と銘打たれたさらさ30号では「川と銘酒」を特集。

第31号～第81号



▲40号巻頭特集「災害に備えた川」



▲80号「速やかな水防・救援活動の実現に向けて」



◀70号「和歌山県防災総合訓練(有田川水系)」

近年、ニュースを賑わす河川災害についてもその対策・備えを特集する記事が年を追うごとに増えています。

さらさ誌面の変遷からも水防に対する関心が高まってきていることが読み取れます。

82号・83号～突然の休刊とさらさ復刊～

▼82号表紙「兵庫県 円山川」



▲復刊号表紙「大阪府 八軒家(大川)」



◀復刊号「兵庫県女性職員インタビュー」

川の情報誌”さらさ”は1987年の創刊から約21年後の82号で突然の休刊となりました。

その後、約5年の歳月経て、当時の整備局担当者の手によって2013年秋に復刊することとなりました。

そして、2017年12月 かわの情報誌”さらさ”は100号を迎えました！

今後も近畿の「かわ」に寄り添いながら、「かわ」の楽しいトピックスから防災や

河川改修などのまじめな話題まで幅広くお伝えしていきます！



1987年さらさ創刊時の担当者へ突撃インタビュー！

「かわの情報誌”さらさ”
は画期的な取り組み」



▲当時携わったさらさ創刊号と最新99号を手にする野口さん

約31年前のさらさ創刊に携わった野口 隆さんに創刊当時の話から今のさらさについてインタビューを行いました。



野口さんはさらさ創刊時、近畿地方建設局の河川計画課に係員として在籍し、さらさ創刊に携わりました。現在は(公)河川財団近畿事務所長として、よりよい河川環境の実現に向けご尽力されています。

■ 野口さん、本日はよろしくお願ひします。早速ですが31年前の創刊当時の話をお聞きしたいと思います。さらさ創刊にあたってどのような思いもしくは期待をもっておられましたか。

野口さん 取材のついでに、いろんな地域の川の現場に触れて楽しい思いができるなと思っていました。ただ、こういった川に親しみをもってもらえるような楽しい情報を発信することが河川事業の理解や関心を深めるための第一歩になると考えていましたので、さらさについては川での遊びなど楽しい情報をメインに発信していこうという思いがありました。実際に取材で熊野川の川湯に行ったこともありでしたね。

■ 取材や記事執筆、編集などで苦労されたことがあればお聞かせください。

野口さん やっぱ取材で現場に行くのは楽しかったのですが執筆作業は面倒でしたね。

■ 創刊当時、まわりの反応は如何でしたか。

野口さん 全国的にも例のない、画期的な取り組みとして受け入れられていました。一時期は書店に並んだことがあるほど血気盛んにやっておりました。

■ 今のさらさについてどう思われますか。

野口さん 硬くなったように思いますね。まじめな河川事業の記事もあってよいとは思いますが多くの人に読んでもらいたいのなら、前半は一般の方向けの軟らかく親しみやすい記事にして、後半に担当者向けのマニアックな記事を入れたり、入り口を下げる工夫が必要だと思います。

■ 100号から多くの人に読んでもらえるようにダムカレー特集などの親しみやすい記事をいれて、創刊時のさらさが目指していたものに近づけたいと思っています。

■ 最後に川全般に関して気になっていること関心のあることはありますか。

野口さん 何よりも川に親しみをもってもらうことが大事だと思っています。国でいうと、最近盛んな「ミズベリング」や道頓堀でやっていた「かわまちづくり」などがいい例ですね。川をもっと楽しく活用できることがまだまだあるのではないかと日々感じていますし、もっとやってほしいです。僕が昔遊んだ時代の川に戻すことはできないけれど、現代風の工夫で川にもっと親しんでもらえるような事業や活動に期待しています。



2013年さらさ復刊当時の担当者へインタビュー！

「川には楽しい思い出がいっぱい」

約4年前の”さらさ”復刊号の特集記事にて実際にインタビューをさせていただいた小田 涼子さんに復刊当時の話や今のさらさについて伺ってきました。



▲当時携わった”さらさ”復刊号を手にする小田さん

水辺を巡る～冬の但馬路～

小田さんは2013年のさらさ復刊時、兵庫県河川整備課に在籍し、復刊号の次の号にあたる84号にて、兵庫県但馬の水辺を紹介する記事を執筆いただきました。

現在は私学教育課に在籍し、私立学校の助成にご尽力されています。

■ 小田さん、本日はよろしくお願ひします。早速ですが復刊当時、「さらさ」に対してどのような印象や期待をお持ちでしたか。

小田さん 他府県や整備局とのつながりを深めていくことができるのかなという期待がありました。

■ 取材や執筆時の苦労話を教えてください。

小田さん 特に苦労したということはないのですが、84号に掲載された但馬の水辺についての記事の時は、取材がてら実際に家族で遊びにいきました。子供が水生生物が大好きなので網で何度も水中をすくって、メダカなどを見つけていましたね。

■ 今のさらさについては、どう思われますか。

小田さん 専門誌的な少しお堅い情報誌になったなあという印象です。

■ 意図して難しい記事を集めている訳ではないので、今回の100号をきっかけに親しみやすく、読んで楽しい記事を増やしていきたいと思っています。一読者としてアドバイスを頂けませんか。

小田さん 専門的な話題も当然あってよいと思いますが、前段に身近で親しみやすい話題から入っていけば読みやすくなるのではないのでしょうか。

■ 本日、この場に都合良く100号の編集担当も同席しておりますので参考にさせていただきます。

■ ご自身にとって思い出の川や川にまつわるエピソードが何かあればお聞かせください。

小田さん 思い出の川というと実家の近くにある法華山谷川ですね。昔は長い名前の川だなというくらい印象でしたが河川整備課に配属後2年目くらいに災害があって、実家の庭とかが水浸しになったようで、水害の起こる川なのだなと思いました。

■ 子供の頃はその川でよく遊ばれたのでしょうか。

小田さん そうですね。川というよりはつながっているため池でザリガニ釣りなんかをしていたと思います。あと、池の水を抜いたとき、たくさんいるナマズ？をとる大会というか集まりみたいなものが地域であった気がします。今も実家に帰ると子供が川で虫をとったりして、よく遊んでいますね。

■ 最後に川全般で最近気になっていること、興味のあることがあればお聞かせください。

小田さん 川は思い出に残りやすい場所だと思っていて、私自身も旅行先でラフティングやカヌーをしたり、子供が水の中の虫を探したり楽しい思い出がたくさんあります。でもそういうところで、近年よくある洪水や浸水などの災害が起これば、せっかくの楽しい思い出が悲しい思い出に塗りつぶされてしまう気がするので、そういった意味でも水防災の重要性というものを改めて感じています。

野口さん、小田さん インタビューに御協力いただきありがとうございました。これからも”さらさ”は河川担当者や一般の方へ、広く川の情報を発信していきます。

府民に支えられ「より美しい鴨川」へ

京都府建設交通部河川課

1. はじめに

「山紫水明^{さんしすいめい}」という言葉をご存じでしょうか。風光明媚な景色（写真-1）を表現する言葉で、江戸時代の漢学者、頼山陽が鴨川の丸太町橋の上流右岸側（図-1）に居をかまえ、書齋から眺める東山ときらめく鴨川の水面の景色を表現し「山紫水明処^{さんしすいめいしょ}」と名付けたことに由来します。そんな鴨川も都市化の進展に伴い、家庭や工場等からの排水やゴミの投棄により、一時は河川環境が著しく悪化しました。しかし、その後の景観、環境に配慮した河川整備や府民による美化活動の継続により、今では美しさを取り戻しています。今回はこの30年間の行政と府民が一体となったたゆまぬ努力の蓄積の一端をご紹介します。

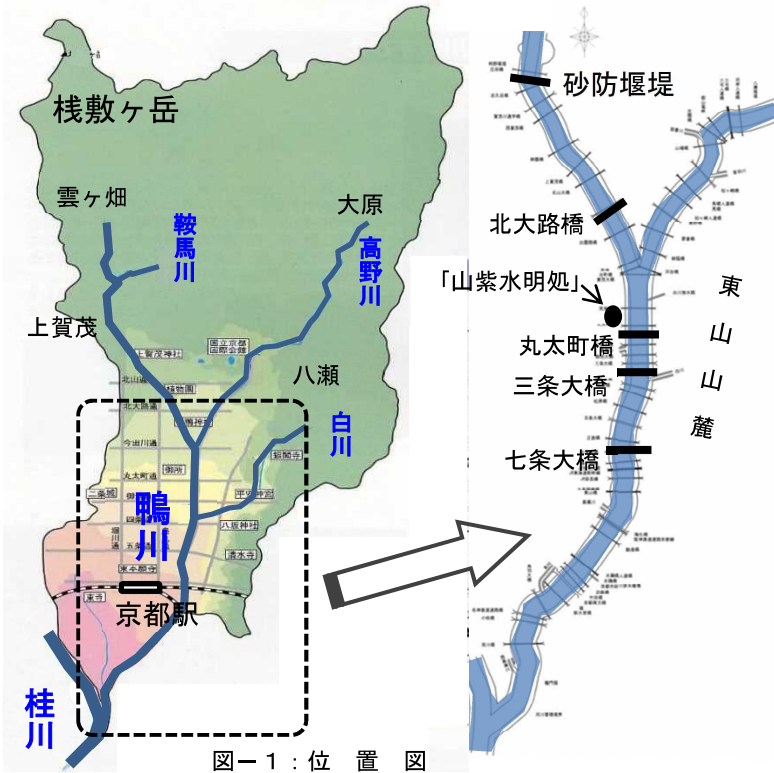


図-1：位置図



写真-1：北大路付近

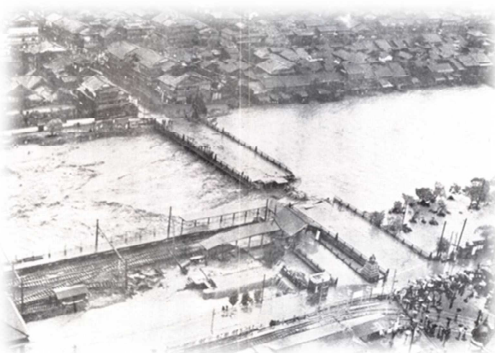


写真-2：三条大橋付近

2. 30年前の鴨川は？

鴨川は京都市北西部の嵯峨ヶ岳を源流とする流域面積約208km²、河川延長約35kmの急流河川です。近代治水のはじまりは、昭和10年（1935年）の大水害（死者12名、家屋流出137棟、浸水家屋24,173棟のほか、三条大橋をはじめ30を超える橋梁が流失（写真-2））が契機となっています。この改修では、上流に砂防堰堤を設置し、土砂流出を抑制するとともに、全川に渡って河道掘削や拡幅を行うもので昭和22年（1947年）に完成しました。しかし、戦時中の影響もあり、三条～七条間は京阪電車や琵琶湖疏水が支障となって暫定的な改修にとどまっていた。そして、ようやくこれらの地下化が実現された時期が、まさに今からちょうど30年前の昭和62年（1987年）です。その後、観光客で賑わう三条～七条間が四季折々の花木を眺めながら散策できる河川空間として平成11年（1999年）に整備され、昭和10年の計画が約60年の時を経て完結しました。（図-2）

3. より美しい鴨川へ

このような災害復旧や河川整備は行政主体となりがちですが、より美しくより親しまれる鴨川を実現するには、地域住民をはじめ幅広い府民の協力が不可欠です。鴨川では、昭和39年、美しさを失う鴨川を見かねた地域住民が、美化と環境保全を目的に活動するボランティア団体「鴨川を美しくする会」を発足させました。美化活動では、ハイキング気分で河床清掃を行う「鴨川定例クリーンハイク」（写真-3）を年5回程度、啓発活動では、昭和44年から三条～四条大橋間に全国各地の物産販売店が集う「鴨川納涼」（写真-4）を毎年実施し、今では夏の風物詩として定着しています。こういった自発的な団体の活動に支えられ、本来の美

しさを取り戻す中で、さらに良好な河川環境がもたらす恵みを、現在の京都に生きる私たちだけでなく、将来世代や京都を訪れる人々、さらには下流の淀川水系にかかわる人々が享受できるよう、京都府では平成 20 年に「京都府鴨川条例」を制定しました。この条例は、全国で初めて、河川環境全般にわたる総合的な規制を盛り込んだ条例で、鴨川環境保全区域の指定、打ち上げ花火やバーベキュー等の迷惑行為の規制などが定められています。また、必要に応じて条例の見直しが行われるよう府民等が意見交換を行う「府民会議」の設置が盛り込まれています。実際、この府民会議を通じて実現された一つが、鴨川に架かる桁下空間を利用して橋に関係深い絵画や歴史をパネルで掲示する「鴨川ギャラリー」(写真-5~7)です。これによって桁下につきまとう不法投棄やホームレスなど暗いイメージが一変しました。こういった一つ一つの積み重ねが、「より美しい鴨川」へとつながっています。

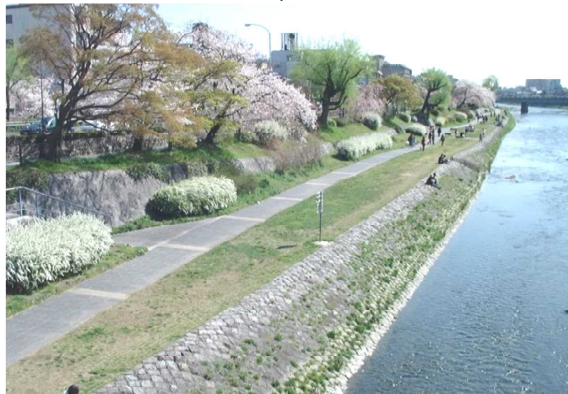
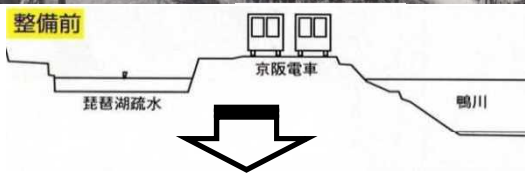


図-2：整備前と整備後



写真-3: クリーンハイク



写真-4: 鴨川納涼

※写真-3、写真-4 (鴨川を美しくする会提供)



写真-6: 改善前



写真-7: 展示拡大



写真-5: 鴨川ギャラリー整備後



写真-8: 鴨川探検！再発見！

4. これからの鴨川

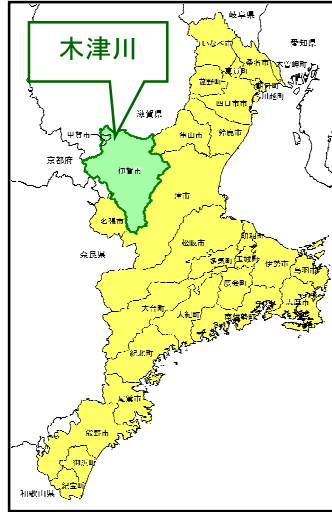
鴨川では概ね 1/30 確率で起こる洪水を安全に流す河川整備を進めていますが、最近の集中豪雨の発生状況や流域における人口・資産の集中状況を考えると、その治水安全度は十分とは言えません。長期的な目標として、1/100 確率の洪水に対応していくことが求められており、今後も総合的に治水対策に取り組んでいく必要があります。一方、鴨川のすばらしさをわかりやすく、次世代に伝えていくことも重要です。今回、インフォメーションでもお知らせしている小学生を対象とした「鴨川探検！再発見！」(写真-8)は、体験を通して川への理解を深め、河川愛護や自然環境への関心を広げる取り組みです。この中から、一人でも多く、美しい鴨川を未来に引き継いでいく子供たちがいることを願っています。

木津川河川改修事業について ～治水の歴史と多自然川づくり～

三重県県土整備部 河川課 上田 高久

1. はじめに

木津川は、一級河川淀川水系の支川でその源を三重県伊賀市の布引山地に発し、上野盆地にて、柘植川、服部川と合流し、狭窄部である岩倉峡、笠置峡をへて京都府八幡市で淀川と合流する流路延長76.0km、流域面積1,596km²の河川である。



伊賀地域は俳聖松尾芭蕉の生誕地として知られ、芭蕉ゆかりの庵「蓑虫庵」が現存するなど、多様な地域資源を有している。また流域内では多くの祭りが行われ、中でも上野天神祭のダンジリ行事は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。



上野天神祭

2. 過去の主要洪水

伊賀地域は、木津川の氾濫により、これまでに幾度となく浸水被害が発生している。

① 昭和28年8月洪水（東近畿水害）

総雨量286.4mm、1時間最大雨量81.2mmの明治34年観測開始以来最大の雨量を記録した。堤防整備が進んでいなかったことが



被災状況

原因で、116名の死傷者・行方不明者、浸水家屋数5,888戸の甚大な被害となった。

② 昭和28年9月洪水（台風13号）

総雨量220.0mm、1時間最大雨量は26mmを記録し、支流域の降雨量が大きかったため、水量は東近畿水害を上回り、死傷者・行方不明者10名、家屋全半壊515戸、無数の山腹崩壊等が発生した。

③ 昭和34年9月洪水（伊勢湾台風）

伊勢湾台風は、史上稀にみる強風と豪雨をもたらし、総雨量265.0mm、瞬間最大風速は34.6mを記録した。木津川上流では、昭和28年の台風13号を上回る洪水となり、破堤氾濫、橋梁・道路・人家・田畑の流失や冠水が続出し、死傷者・行方不明者11名の被害となった。

④ 昭和36年10月洪水（集中豪雨）

総雨量は286.4mmを記録し、昭和28年8月東近畿水害と同程度の雨量を観測した。死傷者3名、家屋全半壊62戸、浸水家屋数2,146戸に及んだ。



被害を伝える市広報

⑤ 平成5年9月洪水（台風14号）

総雨量148.0mm、日最大雨量は73mmを記録し、重要な生活道路である国道422号および農地の浸水被害が生じた。



国道422号浸水状況

⑤ 平成25年9月洪水（台風18号）

総雨量265.5mm、日最大165mmを記録し、木津川、服部川において、浸水家屋数103戸の被害が発生した。



国道422号被災状況

3. 木津川の治水対策

木津川の下流部は国土交通省が管理し、上流の指定区間を三重県が管理（県管理区間は延長 24.2km）しており、



自然豊かな木津川

指定区間の主要な事業は、昭和 28 年の災害を受け、昭和 30 年に中小河川改修事業（広域河川改修事業）により着手し、整備を進めている。

また伊賀市・名張市・津市の木津川において、特別天然記念物オオサンショウウオの生息地であるため環境に配慮した多自然川づくりを実施している。

(1) オオサンショウウオについて

オオサンショウウオは国の特別天然記念物であり、国のレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として選定されており、個体の保護はもとより、生息環境の保全が必要である。

(2) 保護の取組み

三重県では、平成 13 年度に策定した「特別天然記念物保護管理指針」の中で河川工事に伴う事前の生息状況調査と着工時の保護調査及び保全工法の実施について明文化し、個体と生息環境の保護に取り組んでいる。

平成 24 年度には保護管理指針策定から 10 年を機に全国的なオオサンショウウオの調査研究結果や外来種対策を反映するとともに、流域の一体的なオオサンショウウオの保護対策を推進するため、上

特別天然記念物オオサンショウウオ
保護管理指針 2012



2012年(平成24年)3月
三重県教育委員会
奈良県教育委員会

流部にあたる奈良県と共同で策定した「特別天然記念物保護管理指針 2012」に基づき、オオサンショウウオ保護対策を実施している。

(3) 多自然川づくり ～生物環境への配慮～

オオサンショウウオの生息には、昼間の潜み場となる浮き石や岸辺植生、産卵巣穴となる伏流水のあ

る横穴や岩盤の隙間などの多様な水辺環境が必要であり、水辺環境を創出するために、河床掘削等の現場発生材により寄せ石等の取組を進めている。



低水路の法尻に寄せ石を設置



寄せ石の間から植生が生え、良好な生息環境を創出

河川内工事におけるオオサンショウウオの保護を目的として、有識者、国土交通省、三重県、伊賀市、水資源機構、教育委員会で構成されるオオサンショウウオ保護調整会議を開催し、保全対策が必要な箇所のリスタアップ、保全対策の決定、過去に設置した人工巣穴の調査・メンテナンス等を実施している。



巣穴メンテナンス状況



河川内に設置した人工巣穴

4. おわりに

洪水被害を軽減するための治水対策を進めつつ、河川が本来有する環境を保全できるよう、今後も有識者等の意見を聞きながら、広い視野を持って事業を推進していく必要がある。また、施設完成後も、巣穴メンテナンス等の生育環境の維持や効果検証等、継続的に関わっていく必要がある。

水を流す河川から生活に息づく河川へ

京都市建設局土木管理部河川整備課 西村 卓展

はじめに

河川整備におけるこの 30 年は、これまでの治水のみを考えていたものから、景観、生物多様性及び親水性など多様な地域のニーズに応じた新たな付加価値を与える河川整備に転換した時期であったように思います。

以下に京都市における多様な河川整備の事例をご紹介します。

施工事例からみる整備方法の変化

1. 高瀬川（観光資源に資する整備）

京都市中心部にあり、多くの観光客でにぎわう木屋町通のすぐ横を流れる高瀬川において、護岸の損傷、老朽化に伴う漏水によって水がれが発生し、良好な水辺空間を保つことが困難な状況になっていました。

沿川の地域との意見交換会を行い、老朽化した石垣護岸を積み直すにあたり、当時の風情を残すため、表面にコンクリートが見えない深目地仕上げを採用し、漏水抑制については、遮水シートを設置しました。

深目地とは、石と石の間に植生を回復させ、生物のすみかになる「生物多様性」に配慮した構造です。

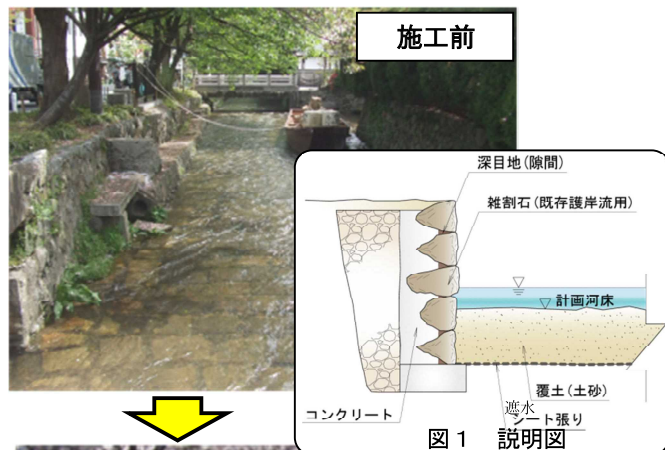


写真 1 高瀬川改修前後

2. 七瀬川（二層式河川による親水空間の創出）

京都市の南部を流れる七瀬川は河川幅が狭く、浸水被害が度々発生していました。構造に二層式河川を採用して浸水に対する安全性を高めるだけでなく、安らぎや華やぎのあるまちづくりの一環として、上部河川は潤いと安らぎの感じられる空間を創出し、せせらぎや植栽を生かした親水河川としました。



写真 2 七瀬川改修前後

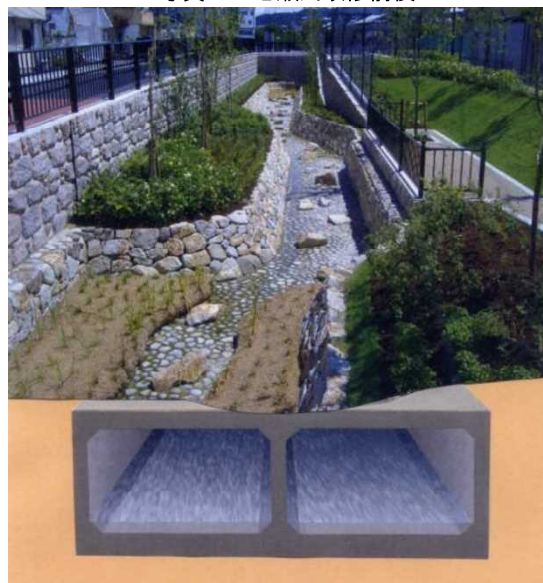


図 2 七瀬川二層式河川イメージ図

3. 堀川（親水護岸の築造から観光資源へ）

京都市の中央を南北に流れる堀川は、これまでの歴史の中で、木材等を運ぶ運河や二条城のお堀、周辺の神社仏閣の池の水源として、あるいは、友禅の水洗いの場として利用されてきました。

市民からの環境改善に関する要望に端を発し、「清流を復活させ、親しめる水辺環境の整備」を目指し、各河川の流れる場所ごとにテーマを設定し、ワークショップ等を行いながら整備を行いました。

現在は、春は「堀川桜まつり」、夏は「京の七夕」の会場となっており新しい観光名所となっています。



施工前



施工後

写真3 堀川改修前後



京の七夕



堀川桜まつり

写真4 堀川でのイベントの様子

4. 第二太田川（調整池整備）

京都市の北部を流れる第二太田川は流下能力が不足しているが、民家が連担しており、河川拡幅が困難であったことから、隣接する公園の地下空間に調整池を整備し、治水安全度を向上させました。

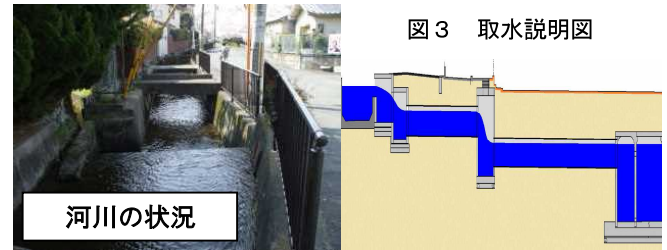


図3 取水説明図

写真5 第二太田川の周辺状況

写真6 調整池新設後

図4 調整池合成図



施工後

一乗寺公園 地下

おわりに

近年の整備は、水を流すだけの河川改修から、親水護岸による人と川の関わり合いや生物多様性に配慮した河川のありかたに変わり、さらには、その空間を利用することで、新たな観光名所になる場所も生まれています。

河川の治水対策においても、これまでの河川拡幅や線形改良だけでなく、既存施設（公園）の地下空間を有効活用するといった河川整備手法が行われるなど、地域の事情に合わせた多様化がみられるようになりました。

各々の河川が担ってきた役割を考えるとともに、その河川の歴史に思いをはせながら、現在の地域の状況に合わせ、ワークショップやアンケートなどにより市民の方々の意見を取り入れ、河川の整備方法を模索し、「水を流すだけの河川」から「どのような河川にしたいのかを考え、生活の中に息づく河川空間の創出」に変わった30年であったように思います。

城崎温泉街を流れる大谿川

1. はじめに

大谿川は、一級河川円山川水系の支川で兵庫県豊岡市城崎町を流れる、延長1,885mの河川です。

兵庫県でも有数の観光地である城崎温泉は、約1300年の歴史があり、志賀直哉の「城の崎にて」の舞台となったところで大谿川は温泉街の中心を流れていることから、城崎温泉に観光に来られた方は、一度は目にしていると思います。季節によって風景が変化し、特に冬には柳並木に雪がかかり、見応えのある景色になります。

大谿川の歴史とともに一度は行ってみたいと思ってもらえるようなイベント情報も紹介していきたいと思います。



〈写真-1〉大谿川の景色

2. 大谿川の歴史

城崎温泉街は、大正14年(1925年)5月23日に発生した北但大震災によって大きな被害を受け、その復興事業として、土地区画整理、道路改良、河川改修が一体的に行われました。

兵庫県県土整備部河川整備課 村尾 拓哉

その際の大谿川の護岸整備には、今は国の天然記念物に指定されている玄武洞の玄武岩をほとんどそのまま使用しています。震災の影響で崩壊した玄武岩を約4km離れた大谿川まで運び、積み上げていますが、これは玄武洞が国の天然記念物に指定される前だったため可能でしたが、現在は石材の移動ができず、同種の石材を用いることが難しくなっており、とても貴重なものです。



〈写真-2〉大谿川の護岸



〈写真-3〉玄武洞

3. 大谿川イベント

一年を通して様々なイベントが行われますが、その中でも毎年8月に開催される「城崎大谿川灯籠流し・城崎温泉夢花火」について紹介したいと思います。

このイベントでは、約500個の灯籠が大谿川をゆっくりと流れ、かがり火の明かりとともに幻想的な雰囲気を味わうことができます。すべての灯籠が流れると円山川河川敷から城崎温泉夢花火と題した花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩ります。



〈写真-4〉大谿川灯籠流し



〈写真-5〉城崎温泉夢花火

4. おわりに

この度「川とともに30年」の企画として、兵庫県豊岡市城崎町を流れる「大谿川」にまつわる歴史とイベントをご紹介させていただきました。

私自身、城崎温泉を訪れた際に大谿川を何度か目にしたことはありましたが、大谿川の護岸に使われているのが玄武岩だとは知りませんでした。

この執筆を通じて、大谿川の歴史を知ることができ、次回訪れた際には今までとは違った視点で城崎温泉街を歩くことができそうです。

大谿川周辺では先ほど紹介した大谿川灯籠流しのほかにもたくさんのイベントが行われていますし、玄武洞は山陰海岸ジオパークの見所のひとつとなっています。

ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



アクセス

○大谿川

(電車) JR 山陰本線特急・城崎温泉駅下車

(車) 北近畿豊岡自動車道→日高神鍋高原IC→R312→豊岡→城崎温泉
大阪方面から約3時間30分

○玄武洞

(車) JR 山陰本線城崎温泉駅から約5分



水都大阪の観光拠点を目指して ～道頓堀川を取り組み～

大阪市 建設局 下水道河川部 河川課

1. はじめに

大阪市は、市域面積の約 1 割が水面となっており、他都市と比較しても非常に豊富な水辺を持つ都市です。その中でも、都心部の四方を取り囲む河川（道頓堀川・東横堀川・堂島川・土佐堀川・木津川）を「水の回廊」と呼んでおり、オンリーワンの特徴を生かし、世界に存在感を示す「大阪」の実現を目標に、「水の回廊」が世界第一級の観光拠点となることを目指しています。特に道頓堀川は、活気あふれる飲食店街の中を流れ、巨大なネオン広告が川に向けて取り付けられるなど、国内外からも多くの観光客が訪れる観光スポットとなっております。このように、水都大阪の中で象徴的な道頓堀川について、ご紹介します。

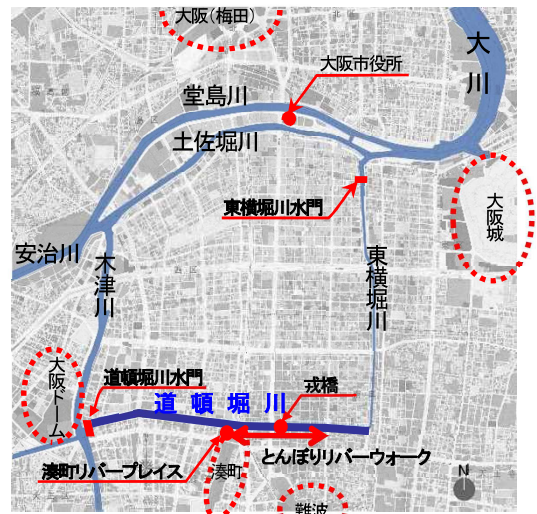


図-1 道頓堀川位置図

2. 道頓堀川の変遷と水辺整備

大阪では、古くから日本の玄関口としての交流の拠点である難波津がおかれ、国際交流拠点として発展してきました。江戸時代には、大阪の城下町の繁栄のため、当時の輸送機関である舟運に用いる航路を開くのと、新田開発の水利と町の排水を目的として、多くの堀川が積極的に開削され、町を縦横に走っていました。道頓堀川もそのうちの一つであり、慶長 19 年（1615 年）に成安道頓・安井道人・平野藤次郎らの町人によって開削されました。また、周辺には道頓堀五座を中心に多くの芝居小屋が建ち並び、道頓堀川の周辺は大いに賑わいを見せていました。当時、水上交通が重要な役割を果たしており、舟運による人・物の交流が活発に行われていました。こうした歴史から、大阪は川と産業・人・暮らしが結びついており、古くから日本を代表する「水の都」と呼ばれています。



写真-1 整備前の道頓堀川

しかし、交通手段が水上から陸上へと時代の流れとともに変遷してきたこともあり、昭和 40 年代までにはほとんどの堀川が埋め立てられました。道頓堀川は埋め立てられることなく現在も残る貴重な水辺空間ですが、高潮対策として大黒橋より西側は昭和 26～33 年に防潮堤、東側は昭和 41～42 年に舟形の緑化護岸を築造しました（写真-1）。当時、この高い護岸のために人々は水辺に近づくことができず、伝統行事などで河面は用いられていたものの、人々の生活やまちと川との関係が分断されることとなりました。

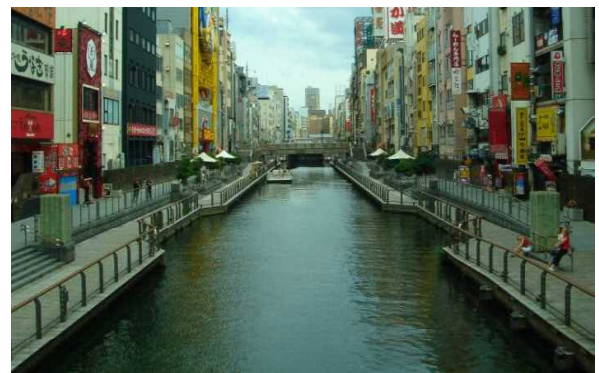


写真-2 整備後の道頓堀川

この道頓堀川を真に市民が憩い、親しめる河川として整備し、「水の都・大阪」を代表する観光拠点とするため、貴重な財産である都心部の水辺を最大限に生かしたまちづくりを進めています。平成 7 年度より道頓堀川水辺整備事業を開始し、水辺空間を利用した賑わい創出を図るため、平成 15 年度に国・府・市・経済界からなる「水の都大阪再生協議会」を設立しました。そして「水の都大阪再生構想」

が策定され、道頓堀川水辺整備事業をリーディングプロジェクトとして取り組みを進めました。そして、湊町～日本橋の全長約1kmの遊歩道を平成25年4月より供用開始しています（写真-2）。この道頓堀川遊歩道は「とんぼりリバーウォーク」という愛称で親しまれています。この愛称は、広く市民の方に知っていただき、親しんでもらえる場所となることを目的に募集を行い、応募総数1004作品の中から地元代表者や学識経験者による審査を経て決定されました。

3. 道頓堀川の賑わい創出

元来、河川区域においては法律上、営利目的による物販やイベント実施、オープンカフェの実施などは規制されており、道頓堀川での新たな賑わい創出に向けた法律上の課題を解決する必要がありました。このような中、平成16年3月の河川敷地占用許可準則（以下「準則」という）の特例措置により、イベントやオープンカフェ等を実施することが可能となり、平成16年12月に供用を開始し、戎橋～太左衛門橋区間において、平成17年度より社会実験として規制緩和によるイベント等を実施しました。

その後さらなる規制緩和が進み、平成23年3月に準則の改正が施行され、これまでの特例措置の内容が恒久制度化されるとともに公的機関に限定されていた占用主体が民間事業者も対象となりました。この規制緩和を機に民間ノウハウを生かしたさらなる賑わい創出を目的として、都市・地域再生等利用区域に指定された湊町～日本橋の全長約1kmを対象に道頓堀川遊歩道の管理運営事業者を公募しました。その結果、平成24年度より南海電気鉄道株式会社による管理運営が行われ、イベント件数やオープンカフェ件数が大きく増えるなど、賑わいが創出されています。（図-2、図-3）



図-2 道頓堀川遊歩道全体図



図-3 賑わい創出の取り組み成果

4. おわりに

今後も、道頓堀川において、さらなる魅力向上に努めて参りますので、ぜひ一度「とんぼりリバーウォーク」まで足を運んでみてください。



余呉湖の冬の風物詩 ～わかさぎ釣り～

滋賀県 余呉湖

余呉町のシンボル「余呉湖」。

余呉の南端に位置し、東、南、西の三方を山が囲みます。

南方にそびえる賤ヶ岳により、琵琶湖と隔てられています。

もともとは、柳ヶ瀬断層の働きによってできた陥没湖で、周囲の山々の溪流や伏流水が流れ込むだけの閉鎖湖でした。

湖面が穏やかで鏡のようであることから、「鏡湖」とも呼ばれています。

神戸市 有馬四十八滝く七曲滝の氷瀑く



神戸市北区の有馬温泉から六甲山山頂への登山ルートには、「有馬四十八滝」と呼ばれる滝群があり、冬季には多くの滝が凍結し、氷瀑を形成することで知られています。

「七曲滝」は、岩盤上を流れる長さ40m・落差20mの滝で、四十八滝の中で一番大きいものです。

滋賀県で楽しめるダムカレーをご紹介します！

滋賀県 土木交通部 流域政策局



道の駅 奥永源寺溪流の里 (東近江市蓼畑町 510)

☎0748-29-0428



えいげんじ 永源寺ダムカレー

コンクリートと石積からなる特徴的なダムの堤防をご飯で再現し、ダム湖に見立てたルーには季節を彩る生麩が浮かぶ。トッピングには鹿肉やイワナの竜田揚げなどが日替わりで登場。ボリューム満点で見た目も楽しい一品です。



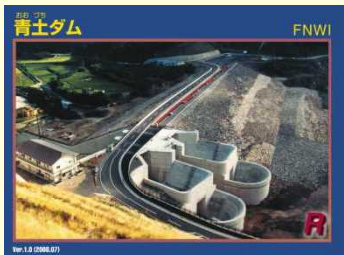
DAM-DATA	
所在地	滋賀県東近江市永源寺相谷町
河川名	深川水系愛知川
型式	重力式コンクリートダム+ロックフィルダム
ゲート	多段扉水門ゲート×3段1門 低水取水門ゲート×1門 ラジアルゲート×4門
堤高・堤頂長	73.5m・392.0m (蓄力部272.0m、フィルダム120.0m)
総貯水容量	2,274万m ³
管理者	滋賀県農政水産部
本構工完成年	1959/1972年
URL	http://www.pref.shiga.lg.jp/river/index.html
ランダム情報	
愛知川の河岸に広がる湖床平野約7.8EOnaの水田、かんがい用水の安定供給を図るために、永源寺ダム、相谷取水門(50m幅)が建設(川原利業により施工された)。	
こだわり技術	
ダムサイトの地形や地質を念のため左岸側をコンクリート重力式ダム、右岸側をロックフィルダムとする組合せダムで、基礎部では日本最初の組み立てり永源寺ダムの一大特徴となっている。	

甲賀の奥座敷大河原温泉 かもしか荘 (甲賀市土山町大河原 1104) ☎0748-69-0344



おおづち 青土ダムカレー

地元産の猪のしぐれ煮をメインに添えたグリーンカレー。青土ダムの特徴的な円形洪水吐きが、大きな茄子の素揚げと煮卵によって見事に表現されたダムファンも納得の一品です。



DAM-DATA	
所在地	滋賀県甲賀市土山町
河川名	深川水系野洲川
型式	ロックフィルダム
ゲート	オフィスラジアルゲート×1門 クロスゲート×2門 ジェットブローゲート×2門 3段式取水シンターゲート
堤高・堤頂長	149.6m・100m
総貯水容量	730万m ³
管理者	滋賀県土木交通部
本構工完成年	1981/1988年
URL	http://www.pref.shiga.lg.jp/r/kaizen/index.html
ランダム情報	
野洲川中、上流部の洪水調節の軽減と用い(維持)用水の確保、甲賀部への水資源の確保、湖床工建設への水資源供給のための建設。出力20MWのダム管理用発電機(水車形式クロスフロー)設置、ダム周辺にはレクリエーション施設多数有。	
こだわり技術	
一般的な自然調節方式に比べ洪水初流入量に対する貯留量の遊反性を高める洪水調節容量の減少を目的とした「常流システム(自然遊反)」「ワートレスシステム(遊反型)」の応用技術を採用している。試験体小規模のイメージが印象的。	



よすがわ 野洲川ダムカレー

地元産の鹿を使ったカツをメインに、お米は地元「鮎河米」を使用。ルーにはワカサギの唐揚げが泳ぎ、旬の野菜の素揚げをトッピングした、ボリュームたっぷりの欧風カレーです。



DAM-DATA	
所在地	滋賀県甲賀市土山町大河原
河川名	深川水系野洲川
型式	重力式コンクリートダム
ゲート	自然経流型
堤高・堤頂長	54.4m・142m
総貯水容量	850万m ³
管理者	甲賀市、湖南市、栗東市、守山市、野洲市
本構工完成年	(当初) 1939/1951年 (1978年施設改修完成) (2010年施設改修完成(ゲート形式変更))
ランダム情報	
野洲川(ダムは、湖床・甲賀地域に広がる水田3,120haで、かんがい用水の安定供給を図るために、国営事業により完成された重要な水源地とある)。	
こだわり技術	
水源地における山外への降雨、河床の侵食等に伴う洪水流出量の増大に対応するため、ダムの躯体を厚くするための重力コンクリートの施工や、洪水位をゲートから自然経流型に変更し、安全性を高めるための対策を実施した。	

水辺の娯楽 布目ダム

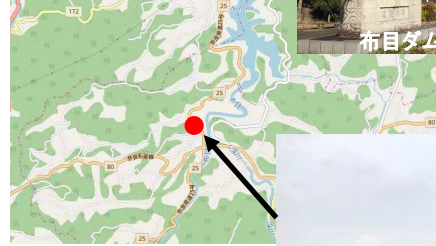
～「布目ダムカレー」と「やまぞえ布目ダムマラソン大会」～

奈良県 県土マネジメント部河川課 井上 貴照

・布目ダム

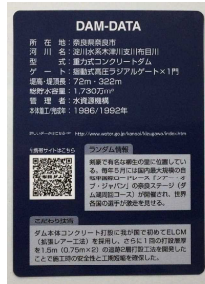
- 河川名：淀川水系布目川
- 位地：奈良県奈良市
- 集水面積：75.0 km²

- ダム本体の形式：重力式コンクリートダム
- わきダムの形式：ロックフィルダム
- 総貯水量：17,300,000 m³
- ・洪水調節や水道用水、水力発電（ダムの管理用）などの多目的ダムとして活躍しています！



ダムカード(布目ダム)

※布目ダム管理事務所にて、
入手することができます。



・布目ダムカレー

■場所：喫茶店「ぶらんぽと」
奈良県山辺郡山添村桐山 60-3

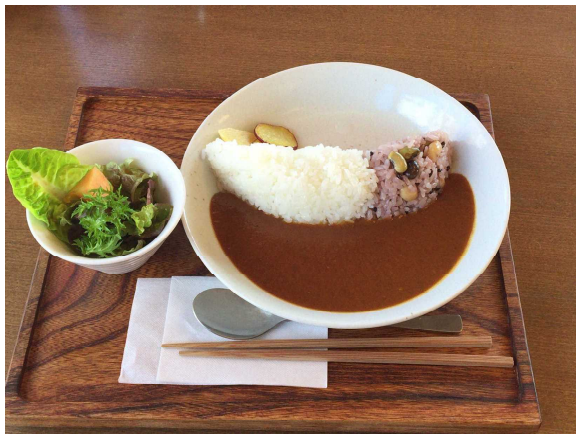
■TEL：0743-86-0505

■定休日：水曜日、木曜日 ■駐車場：5台

・布目ダムカレーはランチの裏メニューのため、ご注意ください！
(布目カレーではありません。)

・布目ダムの特徴である重力式コンクリートダムとロックフィルダムを白米と五穀米で表現！（五穀米がなくなり次第、販売終了）
・添えてある野菜やサラダは、喫茶店周辺にある畑で栽培されたもので季節ごとによります。

・ダムカレーは見た目だけではなく、食べ方でも楽しむことができます。「堤体であるご飯に穴を開けて、放流を再現しながら食べる」や、「穴を開けずにいかに流さずに食べるか」など様々な食べ方で楽しむことができます。ちなみに、筆者は「いかに流さずに食べるか」でダムカレーを堪能しました。



布目ダムカレー

・やまぞえ布目ダムマラソン大会

■日時：毎年12月第一日曜日に開催

(平成29年度は12月3日に開催し、終了しています)

■場所：布目湖周辺（奈良県山辺郡山添村桐山農村広場）

- 種目／部門
 - ・10km／16歳～49歳以下の部、50歳以上の部、中学生の部(いずれも男女別)
 - ・3km／16歳～49歳以下の部、50歳以上の部、中学生の部、小学校学年別(いずれも男女別)
 - ・駅伝15km(5区間)／男女別・混成・ファミリー

●参加料(税込)：一般3,000円、高校生2,000円、小中学生1,000円(昼食・保険料含む)

■交通機関：JR・近鉄奈良駅より奈良交通バスで東山線大橋下車徒歩3分

名阪国道山添ICより約15分



奈良県の総合治水対策について

～大和川流域における総合治水の推進に関する条例の制定～

奈良県 県土マネジメント部 河川課 井上 貴照

1. はじめに

奈良県の大和川流域は、四方を山地に囲まれた盆地であり、唯一の出口である亀の瀬は狭窄部であるため、雨水がたまりやすい地形です。また、京阪神地区に隣接し、交通の利便性が高いことから、昭和30年代後半の高度経済成長期以後、流域の開発が急速に進展したことによって雨水の流出量が増加し、浸水被害が発生しやすい状況になりました。現に昭和57年8月には、10000戸以上の浸水被害が発生した「大和川大水害」を経験しました。そこで、水を安全にながすことを目的とした“治水対策”に加え、流域の保水力を高め、雨水の河川への流出を抑制を目的とした“流域対策”を組み合わせた総合治水対策を昭和58年から取り組んできました。



図1 大和川流域

しかし、総合治水を始めて30年以上が経過し、様々な課題が発生しています。その課題を解決するとともに、総合治水対策の取組強化を図るために条例の制定が必要と考えました。

ここでは、平成29年の9月の県議会において議決され、平成30年4月1日に施行していく「大和川流域における総合治水の推進に関する条例」を、以下に紹介させていただきます。

2. 条例制定の背景

昭和57年8月の「大和川大水害」を契機に、当時の建設省、奈良県、大和川流域25市町村からなる「大和川流域総合治水対策協議会」を昭和58年2月に設立しました。その協議会において、“治水対策”と“流域対策”でそれぞれの分担流量を1790 m³/s、310 m³/sと決定した大和川流域整備計画を昭和60年7月に策定しました。また、整備計画を基に県と市町村の流域対策（雨水貯留浸透施設及びため池治水利用）の最小必要量を決定した大和川流域整備計画実施要領を策定しています。これまで、この大和川の流量分担量を目指して、“治水対策”では河川改修や遊水地、ダムなどの川の水を安全に流す施設整備を行い、“流域対策”では防災調整池や雨水貯留浸透施設、ため池治水利用などのためる機能と保水機能で河川への流出を抑制する対策を行ってきました。

しかし・・・

昭和58年から取り組んできた総合治水対策について、社会情勢の変化により新たな課題が発生してきました。



- ・防災調整池の設置を必要としない小規模開発の増加（3,000 m²未満の開発が約38%に）
- ・市町村による流域対策の低迷（ため池治水利用施設の対策率は約43%）
- ・ため池の減少による保水力の低下（約15年で約400個のため池が減少）
- ・浸水被害の恐れのある区域における市街化区域編入 など

3. 条例の概要

条例の目的

- 大和川流域における新たな課題の解決に向けた取組の強化
- 総合治水の取り組みを体系的に実施

➔

- 浸水被害の軽減及び拡大の防止
- 県民のくらしの向上
- 企業誘致などの基盤となる治水安全度の向上

条例の特徴

- ① 「ながす対策」「ためる対策」「ひかえる対策」の三本柱で総合治水を推進します。
- ② 開発等に伴う防災調整池の対象面積を強化します。【従来】3,000㎡以上 → 【条例】1,000㎡以上
- ⚠️ 防災調整池の設置、適正な維持管理義務について知事の命令に従わない場合、罰則が適用されます
- ③ 浸水のおそれのある区域を指定・公表し、原則として市街化区域への編入を行いません。
- ④ 総合治水の推進のため、協定を締結し市町村を支援するなど推進体制をつくります。

ながす対策（治水対策）

降った雨を河川で安全に流すために、河川整備や維持管理を行います。

- ・大和川水系河川整備計画等に基づき、河川の整備、河川管理施設の維持管理を行う。

ひかえる対策（土地利用対策）

浸水のおそれのある区域での市街化を抑制します。

- ・市街化編入抑制区域を指定し、公表します。
- 💡 市街化編入抑制区域とは、10年確率降雨で想定浸水深が50cm以上の区域（市街化調整区域内に限る）
- ・市街化編入抑制区域を、新たに市街化区域として定めないものとします。（ただし対策が講じられる場合は除く）

ためる対策（流域対策）

降った雨が一気に川に流れ出ないように、一時的に雨を貯める対策を行います。

- ・特定開発行為をしようとする者は、あらかじめ防災調整池等の計画等を知事に届出なければなりません。
- ・特定開発行為をする者は、知事が定める基準に適合する防災調整池等を設置しなければなりません。
- ・防災調整池等の設置が完了したときは、管理者等を届け出なければなりません。
- ・防災調整池の管理者は、知事が定める基準に基づき、防災調整池の機能を維持するために適正な管理を行わなければなりません。
- 💡 特定開発行為とは
 - ① 1,000㎡以上の都市計画法、宅地造成等規制法、採石法、砂利採取法の規定により知事の許可又は認可を受けなければならない開発行為等
 - ② 10,000㎡以上の森林法の規定により知事の許可を受けなければならない開発行為
- ・雨水貯留浸透施設の整備と適正な管理
- ・ため池治水利用施設の整備と適正な管理
- ・水田貯留施設の整備と適正な管理
- ・ため池の保全 ・農地の保全 ・森林の保全

総合治水の推進体制

支川流域の上下流市町村が連携して一体的に取り組む仕組みをつくります。

- ・県と支川流域市町村は、総合治水の推進に関する協定を締結することができます。
- ・協定を締結したときは、県と市町村は総合治水の推進に関する計画を策定します。
- ・計画に基づく県の施策を積極的に実施し、計画に基づく市町村の施策を積極的に支援します。

4. さいごに

近年、全国的に集中豪雨や台風による被害が多く見られます。奈良県においても、今年9月12日の集中豪雨や台風21号により多くの被害が発生しました。このような状況と「大和川流域における総合治水の推進に関する条例」が平成30年の4月1日より施行となることから、この機会に一般の方も水害について今一度考えていただき、雨どいから流れ落ちる水をバケツに貯めて花への水やりや、大雨の時に風呂の水を流すのを少し待って貯めておくなど、一人一人が身近にできる総合治水対策をしていただけたらと思います。

「2025年 国際博覧会を大阪・関西へ」

現在、2025年に開催する国際博覧会の大阪・関西への誘致実現に向け、官民あげた誘致活動に取り組んでいます。開催決定は2018年11月の博覧会国際事務局（BIE）の総会で、加盟国の投票により決まります。

12月上旬には、BIEのケルケンツェス次長が来阪され、最終日の12月7日には、国際会議場前から道頓堀まで乗船され、その沿岸の各所では様々な歓迎行事が開催されました。

① 堂島川畔（ほたるまち・福島港付近）

12月13日から25日まで開催される、噴水アトラクションである「中之島ウォーターファンタジア」を、開催に先立ちご覧いただきました。

② 木津川遊歩空間（トコトコダンダン）

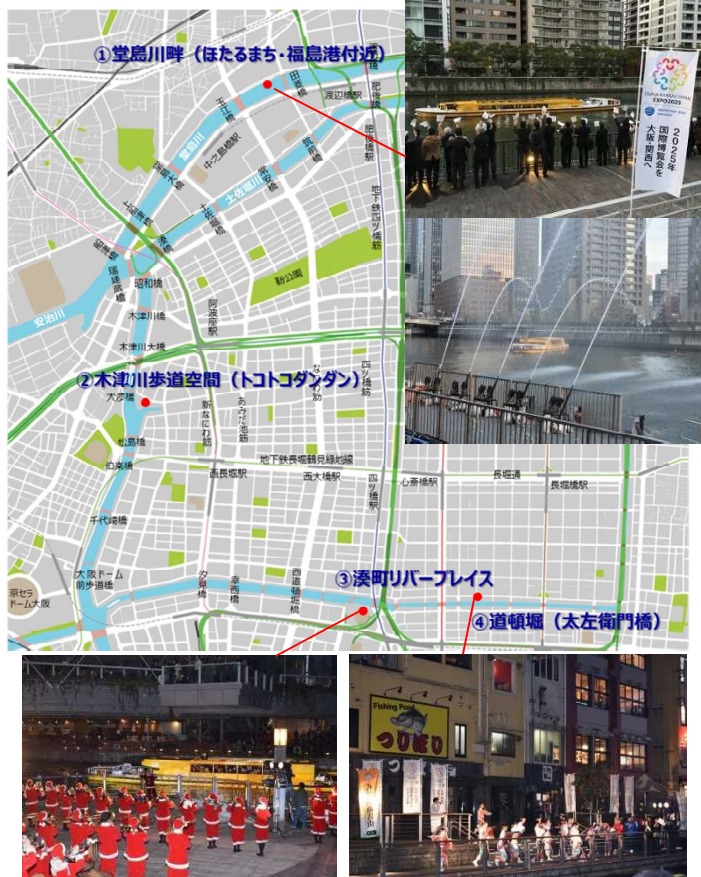
木津川に整備した木津川遊歩空間「トコトコダンダン」付近では、日本シティサップ協会のご協力のもと「スタンドアップパドル・サーフィン（SUP）」上で万博誘致PRが行われました。

③ 湊町リバープレイス

湊町リバープレイスでは、大阪桐蔭高校のブラズバンド部がサンタクロース姿でスターウォーズのテーマなど、素晴らしい演奏を披露されました。

④ 道頓堀（太左衛門橋）：

よさこい祭りの演舞が披露され、水上移動を最高の形で締めくくりました。



これらの場所の外にも、道中の遊歩道や橋の上などにおいて、地元の市民や周辺の方々が万博誘致ロゴマークの入った小旗を振るなど、歓迎の意を示しました。

1月から3月には、BIEの調査団が現地調査のため来阪されます。この現地調査は、誘致実現に向けた重要なものであり、誘致機運の高まり度合いも調査項目に含まれています。BIEの調査団の現地調査の際には、今回を上回るおもてなしの心で歓迎の意や地元での盛り上がりを示し、誘致を実現したいと考えております。



【2025 日本万国博覧会誘致委員会では、万博誘致にご賛同いただける方を「会員」として募集しています。】

大阪・関西での2025年万博の開催実現に向けて、多大なるご支持・ご協力をよろしくお願いいたします。

(お問い合わせ)

2025 日本万国博覧会誘致委員会（大阪府政策企画部万博誘致室内）

〒540-8570 大阪府中央区大手前2丁目

TEL 06-6944-6826 FAX 06-6944-7442



(会員登録をお願いします)



第11回 淡海の川づくりフォーラム参加団体募集！

■日時：2月4日（日）9：30～16：30

■場所：滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市京町4丁目1-1）

淡海の川づくりフォーラムでは『川や水辺と私たちのいい関係』を築いていくための参考となる

“きらり”と光る活動を公開討論によって探し、その年いちばん輝く活動をみんなで表彰します。

参加していただく団体のみなさまには、団体“いちおし”の活動をA1サイズのパネル1枚にまとめて発表させていただきます。

フォーラムに参加すれば、きっと素晴らしい出会いや活動のヒントがあるはずです。

ぜひご参加ください！



・最寄駅：JR大津駅・京阪島ノ関駅から徒歩5分

・問合せ先：第11回 淡海の川づくりフォーラム

実行委員会事務局（滋賀県 広域河川政策室内）

TEL 077-528-4270

E-Mail ha04@pref.shiga.lg.jp

※申込み方法等、詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/foulamu/forum-top.html>

灯の路と大とんど

■日時：1月7日（日）13：30～

■場所：多神社（奈良県田原本町）

奈良県田原本町内の飛鳥川沿いで、平成22年から「飛鳥川を軸とした川辺のまちづくり」を実施しています。「飛鳥川を軸とした川辺のまちづくり」では、飛鳥川沿いにある多神社との連携イベント「灯の路と大とんど」を行っています。

「灯の路と大とんど」は、古事記を撰録した太安万侶と縁ある多神社を舞台に、地域の子どもたちが作成した約千個の紙灯籠で境内や町中を照らす“灯の路”と、大迫力の“大とんど”の光の饗宴により、幻想的な風景をお楽しみ下さい！また、当日はピザづくり体験（有料・50名様限定）や地域による炊きだしを行うほか、境内では太極拳による奉納などの催し物も行っていきますので、こちらもお楽しみ下さい。



・問い合わせ先

灯の路と大とんど実行委員会事務局 奈良県河川課

TEL 0742-27-7507

開催 15 周年!中之島の水辺に広がる「光のアートフェスティバル」

コアプログラム① 中之島エリア

「OSAKA光のルネサンス2017」

■日時：～12月25日（月）まで17:00～22:00

■場所：大阪市役所周辺 ～中之島公園

コアプログラム② 御堂筋エリア

「御堂筋イルミネーション2017」

■日時：～12月31日（日）まで17:00～23:00

■場所：御堂筋（阪神前交差点～難波西口交差点）

「大阪・光の饗宴2017」が開催中です。
水都大阪のシンボル中之島で繰り広げる
「光のアートフェスティバル」は今年、
15周年を迎えます。

光のアートと市民交流を軸に、憩いの場
である水辺と歴史的価値の高い近代建築物
を活かしたプログラムを開催しています。

・問い合わせ

詳細は以下のホームページをご覧ください。

大阪・光の饗宴実行委員会ホームページ <http://www.hikari-kyoen.com/>



鴨川探検！再発見！第47弾

■日時：2月4日（日）午前10時～12時

■場所：鴨川（京都市北区、北山大橋周辺）

<概要>

京都府では、多くの人に親しまれている鴨川の魅力を改めて発見し、治水や防災、川への理解を深め、河川愛護や自然環境保全への関心と主体的な取組の輪を広げるため、「鴨川探検!再発見!」を開催しています。

第47弾となる今回は、「冬の鴨川 水辺の野鳥観察会」として、鴨川に飛来する野鳥を観察、大都市における自然を実感し、鴨川の魅力や自然の大切さを再認識します。



・交通機関、最寄り駅：京都市営地下鉄北山駅下車
徒歩10分

・問い合わせ先

京都府建設交通部河川課

TEL：075-414-5288

<http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/index.html>

京都・東山花灯路-2018

■日時：平成30年3月9日（金）～3月18日（日）（点灯時間）午後6時～午後9時30分

■場所：京都市内東山地域

白壁や木々にゆらめく陰影、石畳や門前町の店頭に彩りをそえるはんなりとした灯りなど、東山地域の地理的諸条件を生かし、露地行灯などの「灯り」といけばな作品による「花」の演出により、早春の季節感を魅力的に表現します。



灯りと花の路（ねねの道）

露地の両側に無数のLED電球で装飾された「灯り」に、いつもの観光でもその景観の美しさを楽しむ「ねねの道」、「二年坂」、「産寧坂」及びその狭さゆえ楽しくなる「石塀小路」のいつもと違う夜の顔を堪能しながら、随所にある芸術を楽しみ、その道路に面した店を楽しんでみてはどうでしょうか。

また、八坂神社では、五花街の舞妓が舞踊を奉納を予定しています。普段、舞踊を見ない人も見る人も、舞殿を舞台にした華やかな舞踊に夜のひと時を預けてみてはいかがでしょうか。

・開催エリア：東山地域

（北は平安神宮を南に下った三条通青蓮院から円山公園、八坂神社を通過って、南は清水寺までの東山散策路と周辺寺院、神社等）

・主催：京都・花灯路推進協議会

・お問合せ：京都・花灯路推進協議会事務局

TEL：075-212-8173

（平日 10：00～18：00）

・ホームページ <http://www.hanatouro.jp/>



いけばなプロムナード



芸舞妓による奉納舞踊



創作行灯
デザインコンペ



竹灯り・
幽玄の川

写真提供：京都・花灯路推進協議会

狭山池歴史ウォーク

- 日時：毎月第2日曜日通年
- 場所：狭山池
(大阪府大阪狭山市池尻中二丁目)
- 問い合わせ先：狭山池博物館・郷土資料館
協働運営委員会
TEL：072-367-8891

大和川一斉清掃

- 日時：平成30年3月4日(日)午前中
- 場所：大和川流域県内23市町村約60箇所
集合場所等詳しくは、ホームページをご覧ください。
- ※県で傷害保険に加入しますので、あらかじめ参加人数のご連絡をお願いします。
- 問い合わせ先：奈良県県土マネジメント部
河川課(TEL：0742-27-7504)

おかげさまで、かわの情報誌“さらさ”は100号を迎えました！

かわの情報誌“さらさ”は1987年の創刊から近畿の「かわ」に寄り添いながら、川や海、池や小さな水辺のことまで「みず」関わる様々な情報を発信してきました。

近年は行政担当者向けの難しい話題が多かったのですが、そういった担当者向けの話を交えつつも、創刊当初の初心を振り返り、まず「かわ」に親しみをもってもらい、そこから河川行政に対する興味・関心・理解を深めていただくことのできる情報ツールを目指して、引き続き刊行していきます。

■編集後記

(府県編集担当)

記念すべき「さらさ」100号の編集を務めさせていただきました。投稿していただいた方々におかれましては、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。紙面を借りてお礼を申し上げます。

節目である100号の編集担当を務めることができたことを光栄に思います。

今後もますます「さらさ」が盛り上がり、各自治体の情報共有の場であるとともに、一般の方にも「かわ」に興味を持っていただけるような雑誌にしていければと思います。

兵庫県 県土整備部 河川整備課 村尾 拓哉

(整備局編集担当)

かわの情報誌“さらさ”は創刊から約31年の時を経て、ついに100号を迎えました。

100号の作成にあたっては各府県・政令市のご担当者さまにお忙しい中、御協力をいただきましてありがとうございました。特に編集担当の兵庫県とは事前の打合せ等、様々な御協力をいただきました。皆様の御協力のおかげで近年のさらさの中では一番のきになったのではないのでしょうか。

100号の勢いそのままに、今後も近畿の「かわ」に寄り添って様々な情報を発信していきます。本誌が少しでも皆様のお役に立つことになれば幸いです。

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 地域河川課 担当